

## 第4学年1組 学級活動（2）学習指導案

令和6年7月11日（木）第5校時  
児童数  
指導者

### 1 題材「おいしい給食なんでも食べる子大作戦！」

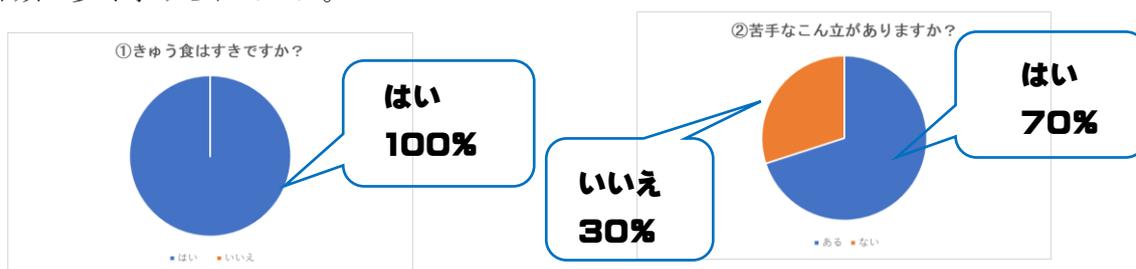
学級活動（2） 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全  
エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

### 2 児童の実態と題材設定の理由

本学級の児童は、明るく活発であり、何事にも一生懸命取り組む様子が見られる。学級活動の話合いが好きな児童が多く、自分の意見をしっかりとつことことができる。

これまでの学級活動（2）の学習指導では、「整理整頓名人になろう」「自分にあった歯磨きをしよう」を行った。グループでは活発に話し合う姿が見られるが、全体の前で発表になると「自分の考えに自信がもてない」「理由を上手に説明出来ない」という理由で、意見を出すことに消極的な児童もいる。

給食の時間については、楽しみにしている児童が多い。しかし、献立によっては残飯量が多く、食べ残しが目立つ。中には、一口も食べずに残したり、偏食が目立ったりする児童もいる。下記の「①きゅう食は好きですか？」の質問には、全員が「はい」と答えた。しかし、「②苦手な献立がありますか？」では、児童の70%程度が「苦手なものがある」と回答している。苦手な献立の中でも特に野菜や魚介類が多く挙げられていた。



本題材は、学級活動（2）「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」に関わり、これまでの給食の食べ方について考えることで、これまでの自分の食の傾向や、食べ物を大切にしようとする態度を養い、よりよい食習慣を形成できるようにすることをねらいにしている。

「つかむ」の場面では、残飯の写真やアンケート等を活用して自分たちの実態や課題点をつかめるようにする。「さぐる」では、給食補助員の思いや家族の願いを提示して、周囲の大人がどのような思いで食事を提供しているのかということに気づき、苦手な野菜や魚が体に与える影響にも気付けるようにする。「みつける」では、課題解決のための方法をグループで話し合う場面を設定することで、健康な体をつくるためには給食を残さずにこれまで以上にいろいろな食べ物を好き嫌いなく食べることが大切であることを理解できるようにし、食事への意欲を高めていきたい。

家庭での生活においても、自ら課題を見つけ、学校での実践を生かして取り組んでいけるように励ましていく。

#### 【道徳との関連】

感謝  
生命の尊さ

#### 【国語との関連】

話すこと・聞くこと  
メモのとり方のくふう

### 3 研究主題との関わり

本校の研究主題は、「互いに認め合う学級風土を土台とした対話する力の育成」である。児童が生きるこれからの社会では、答えのない問いに対して、多様な立場の者が議論し、納得解を生み出していくことが求められる。その過程で、他者との対話(コミュニケーション)は必要不可欠であり、他者と好ましく対話する力は、人生を豊かなものにするための基盤になると考える。

そこで本校は、話すこと・聞くことを中心とした「対話する力」に重点を置いた学級風土づくりと授業改善を行うことで、児童が主体的に自分の考えを表現し、対話を通して考えを深めたり高めたりしていけるよう、研究に取り組んでいく。

## 互いに認め合う学級風土を土台とした対話する力の育成 ～学級経営と話す・聞く活動の充実を通して～

### 【本単元で目指す児童像】

どうしたら給食を少しでも残さずに食べられるかを目標に自分の食事の傾向を考え、自分の課題にあった具体的なめあてや実践方法を決定できる児童。

### 【仮説2】

児童の発達段階に応じて、話す・聞く活動を工夫すれば、考えを高めたり深めたりするための対話する力が身につくであろう。

### 【仮説2における本単元での手立て】

- ⑥円滑に話し合いができるように、話し合いの型を活用する。
- ⑦大きな声で自信をもって全体発表できるように、全体発表する際の型を提示する。
- ⑧考えを広げることができるように、グループと全体発表をする場面を設定する。
- ⑨自分とグループの意見を比べながら聞くことができるように、聞く木の掲示物を活用する。
- ⑩異なる考えを知り、児童同士でフィードバックができるようにペアで意見を伝える場面を設定する。

### 【仮説1】

児童一人一人を大切にしたい学級経営を工夫すれば、互いに認め合い、自分の考えを主体的に表現し合えるであろう。

### 【仮説1における本単元での手立て】

- ①児童一人一人がめあてに合った活動ができるように、アンケート(児童と保護者)やグループでの話し合い活動を取り入れる。
- ②児童が安心して自分の考えを表現し合えるように、気持ちに寄り添ったり、励ましの声をかけたりする。
- ③話し合いの場面では、お互いを認め合えるように、考えのよいところを見付けたり、よい点に共感したりするように促す。
- ④事後の活動では、個々の児童の活動の意欲を継続させるために、給食の時間に声掛けをしたり、めあてに向かって頑張る児童を称賛したりする。
- ⑤家庭と児童の活動や頑張りを共有するために、実践カードに、保護者からのコメントをお願いする。

#### 4 第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見直しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組み、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

#### 5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材を知る。</li> <li>・アンケートに答える。(紙)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題意識の共有化を図る。</li> <li>・自分の現状について考えたり、学級の現状を調べたりして問題意識を高める。</li> </ul>	◎アンケートを通して、これまでの自分の食事の仕方について振り返ろうとしている。 <b>【態】(アンケート)</b>

#### 6 本時のねらい

どうしたら給食を残さずに食べられるか自分の食事の傾向を考え、自己に応じた具体的なめあてや食べ方を自己決定できるようにする。

#### 7 展開

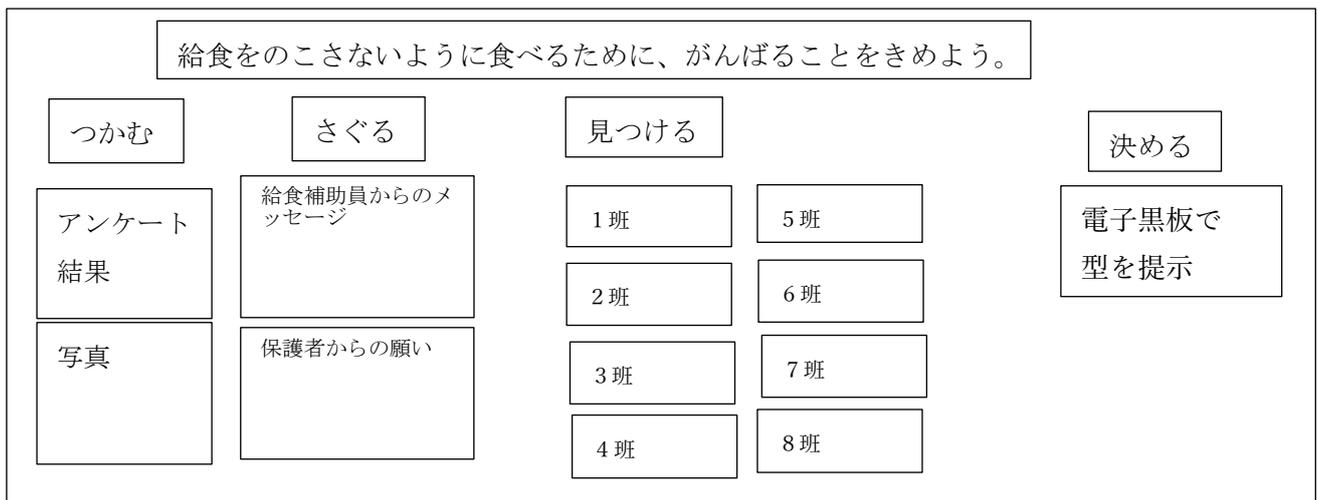
段階	学習活動	学習内容	○指導上の留意点◎評価(配慮・手立て) <b>★話す・聞く活動の工夫</b>	時間
導入 つかむ	1 給食の時間について振り返る。		○事前のアンケート結果から、給食についての意識を高める。 ○普段残した給食の写真を見ることにより、これまでの給食の時間を振り返り、課題を自分事として捉えられるようにする。 ○完食できた日の写真も提示し、少しでも完食できる日を増やしていけるように完食への意欲を高めさせる。	4
	2 本時の課題を確認する。			1
給食をのこさないように食べるために、がんばることをきめよう。				
展開 さぐる	3 給食補助員や保護者の思いや食べ物栄養素について知る。		○自分たちの身近な人の思いや願いを知り、自分の給食のとり方について深く考えられるようにする。 ○残しが多いものの栄養素やその栄養素が体の成長にどのようにつながるかを知らせる。	4

み つ け る	4 課題解決の方法をグループで考え、出た意見を発表する。 グループ→全体	○課題解決の方法を考えること ○3人組での話し合いの仕方	○グループで色々な考えが出せるように机間指導をし、声掛けをしていく。 ★話型を提示し、役割ごとに円滑な話し合いができるようにする。 <b>(手だて⑥)</b>	18
	5 グループで出た意見を全体に発表する。	○全体の前での発表の仕方 ○聴き方	★全体での話型を提示し、自信をもって発表ができるようにする。 <b>(手だて⑦) (手立て⑧) (手立て⑨)</b> ○児童から出た意見は短冊に書いて掲示し、自分のめあてを決めるときに選んだり、参考にしたりできるようにする。 ◎どうしたら給食を残さずに食べられるようになるのか考えている。 (思考・判断・表現)【観察・発言】	10
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;予想される児童の反応&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一口食べる</li> <li>・苦手なものから先に食べる</li> <li>・苦手な食べ物と好きなものを一緒に食べる</li> <li>・細かくして食べる</li> <li>・少しずつ食べる</li> </ul> </div>			
終 末 決 め る	6 学習を振り返り、自分の今後のめあてをもつ。	○学んだことを踏まえて自己のめあてを立てること	○自分にあつためあてや実践方法を決めノートに記入する。 ○具体的なめあてや実践方法となっているか机間指導で見取る。 ○ペアでめあてを共有する時間をとり、お互いの頑張りを励まし合えるようにする。 <b>(手立て⑨)</b> ◎自分の課題に合った具体的なめあてを決めている。 (思考・判断・表現)【カード】	5
	7 振り返りを行う。		○数名発表を行い、今後の活動への意欲が高まるようにする。 <b>(手立て⑨) (手だて⑩)</b>	3
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;期待される振り返り&gt;</p> <p>給食で魚を残すことが多くあつたけれど、給食を作ってくださった方や栄養がたくさんあることが分かった。一口食べることを心がけていきたい。</p> </div>			

## 8 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】(評価方法)
<ul style="list-style-type: none"> <li>決めたためあてを実践する。(まずは1週間)</li> <li>生活を振り返り、実践について自己評価及び見直しを行う。</li> <li>帰りの会で自分の取り組みをスピーチで伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>称賛や励ましの言葉を書き込み、継続して取り組む意欲を高める。</li> <li>友達同士で取組を確認し合う場を設け、お互いの頑張りを励まし合い、自分にも取り入れられそうな事があるかを考えられるようにすることにより、実践の継続を図るようにする。</li> </ul>	◎自分で立てたためあてに進んで取り組もうとしている。 <b>【思考・判断・表現】</b> (実践カード)

## 9 板書計画



※のこさないことがプレッシャーにならないように配慮する。